

アグリ | ワーク | ポイント



農業経営支援課 石田 哲也

令和3年産の概要

令和3年産は豊作の年になりました。早生の「コシヒカリ」は高温等の影響も少なく、例年に比べ良質な米が収穫されました。中生の「きぬむすめ」は乾燥の影響を受けたため、胴割れ粒の発生が目立ちました。晩生の「あいちのかおり」等は例年同様に良質な米が出荷されました。

【集荷量】

1308t 目標対比110%（前年対比128%）
 ※集荷数量の内、コシヒカリが約24%・きぬむすめが18%・あいちのかおりが30%を占めています。

【一等米比率】

○コシヒカリ（早生）	51%（2年19%・元年49%）
○きぬむすめ（中生）	57%（2年60%・元年86%）
○あいちのかおり（晩生）	78%（2年50%・元年67%）
○全体	65%（2年43%・元年63%）

等級落ち理由と要因トップ3

- 1位：カメムシによる着色粒 50%
 ↓ 農道や水田、畦畔等の雑草、薬剤防除の徹底
- 2位：胴割れ粒 25%
 ↓ 刈り取り前の早期落水、刈り遅れ、乾燥機による急激乾燥及び過乾燥
- 3位：青未熟粒 8%
 ↓ 早刈り・籾数過剰・倒伏

今後の対策

○ウンカ対策

昨年は効果的な薬剤の使用で、ウンカ類の被害が問題になりませんでした。令和2年産のような被害を出さないために、今後も警戒が必要です。引き続きウンカ類に効果的な箱剤を使用し、万全な対策を行いましょう。

○カメムシ対策

・斑点米カメムシの防除適期 1回目：穂揃期～傾穂期、2回目：乳熟期～糊熟期
 昨年はカメムシ類による斑点米の発生が目立ちました。また、西日本で問題となっている「イネカメムシ」という大型のカメムシも県内で増えているため、ほ場の様子をよく観察しましょう。

○高温・曇天に負けない土作り

水稻には、ケイ酸がとても重要なため、土壌改良材を必ず入れましょう。また、窒素、リン酸、カリだけでなく、腐植や堆肥などで微量要素も取り入れ、地力を上げましょう。

○水管理の徹底

地域性もあり難しいことですが、地元の方と協力し、栽培暦に沿って徹底した水管理を行いましょう。